

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)総括表

◆基本方針別取組状況

基本方針	取組項目数	取組項目の達成状況	主な取組内容	
1 住民主体による協働のまちづくり	19	◎	3	<ul style="list-style-type: none"> ・稲毛海岸地区部会では、「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 散歩クラブ」等、地域住民による交流の場・集いの場は、年間を通じて開催しており、ほぼコロナ禍前に戻ってきている。「ふれあい 子育てサロン」は9月より再開している。「ふれあい 食事サービス」は集まって食事をしたい、という要望が多かったことから、状況を見ながら、再開することとした。 ・36地区連協(幸町1丁目)が中心となって3年前に立ち上がった「幸町1丁目 健康プラザ」は、地域住民の通いの場として参加者同士の交流や健康に関する講話・体操等が行われている。 ・高洲高浜地区部会では、コロナ禍においても、サロンの内容(メニュー)をコロナ感染対策に対応したものに工夫して、「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 散歩クラブ」をコロナ感染対策を取りながら開催し、高齢者の居場所づくり(集いの場)の提供を行った。 ・幕張西地区部会エリア(30地区連協)内15自治会の内、13自治会が、見守り活動を実施した。毎年、年1回の見守りコーディネーター定例会を開催し、各町内自治会との情報共有を図っている。見守り活動から発展して地域支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきている。
		○	5	
		△	0	
		×	0	
2 誰もが暮らしやすい環境づくり	29	◎	4	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町2丁目地区部会エリアでは、「幸町2丁目連携会議」を実施。地域関係者が集まり、情報共有と地域課題への対応のための連携強化に努めている。 ・真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会が真砂地区の地域情報を一括してホームページで公開(提供)している。 ・真砂地区部会が実施している地域支え合い活動「ささえあい まさご」は、コロナ禍においてもニーズに応え、継続的に実施している。 ・33地区連協(磯辺地区)では、地域支え合い活動を28自治会中10自治会が自治会単位で実施。地区内の高齢化が進みつつある中、コロナ禍においても感染対策に留意しながらゴミ出し等地域住民の福祉的ニーズに応えて実施してきた。 ・打瀬地区部会では、バーチャルリアリティーによる「VR発達障害体験会」を打瀬公民館と共催で実施。新たな視点として「発達障害」に焦点を当てて発達障害者特有の感覚を疑似体験することで障害を理解しより良い支援へとつなげていく足掛かりとなった。 ・地域住民の移動支援の取組みとして、「グリーンスローモビリティ」の実証実験が行われ、街のにぎわいが高まるよう地域全体で支援し、運用実現に期待を寄せている。
		○	4	
		△	0	
		×	0	
3 福祉を支える人づくり	8	◎	4	<ul style="list-style-type: none"> ・稲毛海岸地区部会エリア(38地区連協)では、青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画している。これらにより、多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを行っている。 ・真砂地区部会では、地区部会活動のPRや次の地域活動の担い手となるべく人材発掘の機会として、美浜文化ホールで音楽と芸能のイベントを開催し、社協・地区部会・地域活動等についてPR活動を行った。 ・打瀬地区部会では、打瀬公民館と共催で、打瀬地区の近隣にある東都大学の協力を得て、「ボランティア講座」、美浜いきいきプラザの協力による「第2回 健康フェスティバル」を開催し、健康に関する講話・健康測定の補助を行っていただき、地域での協働の連携を強化し、活動の輪を広げることができた。
		○	3	
		△	1	
		×	0	
今年度の振り返り	56	◎	11	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても地域での各実施主体では、コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらコロナ感染対策を講じて、地域福祉活動を再開・実施させてきた。活動再開にあたっては今後の「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて事業が継続して実施していけることを主眼に置いて工夫を凝らしたものを検討・準備・試行を経て再開させてきている。
		○	12	
		△	1	
		×	0	

今後の課題と方針	<p>これまでも、美浜区特有の地域課題(集合住宅での高齢者独居世帯、エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民のひきこもり・外出困難・買物困難、新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流、支え合い活動等地域福祉活動の担い手不足、活動拠点の確保等)について、「第4期 美浜区支え合いのまち推進計画」(美浜区地域福祉計画)においても地域課題解決のために活動を行ってきたが、コロナ禍の影響による活動自粛の影響もあり課題解決にまでは至らなかった。</p> <p>今後も引き続き、様々な美浜区の地域課題について「第5期 美浜区支え合いのまち推進計画」の基本方針に則り、コロナ感染症拡大防止に留意しながら活動を継続して取り組んでいくと同時に、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」に配慮した地域課題解決のための新たな地域福祉活動を展開していきたい。</p>
----------	--

◆区支え合いのまち推進協議会開催状況

回数	開催日	主な議題
第1回	10月19日(水)	【対面形式開催】 (1)「美浜区支え合いのまち推進計画」に準じた令和3年度における取組状況について
第2回	月 日()	
第3回	月 日()	

◆区支え合いのまち推進協議会だより発行状況

号数	発行日	発行部数及び主な配布先
第 号	月 日()	発行なし

◆区の地域福祉に関する紹介事例等

※ 区内で実施している取組みの中で、工夫して取り組んでいる事例について自由にご記入ください。(枠内に収まらない場合は、A3裏面1枚の範囲で追加いただいて構いません。)

真砂地区部会エリア
『スマホ相談会』の実施 ～各種団体・組織との連携と高齢者支援

令和5年2月28日、美浜区真砂にあるUR真砂第一団地において「スマホ相談会」が開催されました。この相談会は、UR真砂第一団地の生活支援アドバイザーが団地内の高齢の住民のニーズ(要望)を受けて、URコミュニティ(生活支援アドバイザー)・千葉市社会福祉協議会 美浜区事務所(生活支援コーディネーター・地区部会担当)・東都大学との共催での開催となりました。

高齢の住民の方たちは、スマートフォン(スマホ)を必要としながらも、いざ使い始めると、使い慣れた人たちには疑問にも思わないようなことにつまづいて、そこから先に進めなくなり、スマホを使えなくて困っている状況になっている方たちも少なくないようです。

このような困りごと・ニーズをURの生活支援アドバイザーが把握したことで、スマホを子どもの頃から利用し、使い慣れている若い人(学生)にスマホの分からないところをピンポイントで教えてもらうという、スマホ教室ではない「スマホ(使い方)相談会」という名目で、講師に東都大学の学生に依頼をして開催しました。

東都大学 学生への講師(アドバイザー)依頼にあたっては、千葉市社協 美浜区事務所の生活支援コーディネーターや地区部会担当が調整を行い、10人の東都大学生に協力してもらえこととなり、19人の相談者を2部制でマンツーマンでの相談会として開催することができました。

相談会では、スマホの使い方や、教えてほしい・知りたいところを楽しげに相談・質問していました。また、相談・質問以外の会話・雑談も和気あいあいとされており「世代間交流」の場ともなりました。

今後、ますますスマホの必要性が高まるとともにスマホの使い方が分からなくなってしまうという高齢者も多くなっていくと思われます。そのためにも、このような「スマホ(使い方)相談会」を今後も実施していくことによりスマホの使い方等の困りごとが少しでも解消されていければ、安心して暮らしていける環境づくりにもつながっていくのではないかと考えられ、今後も美浜区内の各地区・各所において実施していきたいと考えています。



美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】
 ◎:年度目標以上のものが達成できた場合
 ○:年度目標が概ね達成できた場合
 △:年度目標の一部が達成できた場合
 ×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
 ー:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲毛海岸地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,281人 4,382世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 17.2% 【地域の特徴】 地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウイズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 散歩クラブ」等、地域住民による交流の場・集いの場は、年間を通じて開催しており、ほぼコロナ禍前に戻ってきている。「ふれあい 子育てサロン」は9月より再開している。「ふれあい 食事サービス」は集まって食事をしたい、という要望が多かったことから、状況を見ながら、再開することとした。	○	・「ふれあい 食事サービス」の再開を目指す。コロナが落ち着いた状況になっても、外に出なくなってしまう高齢者が増えていることが課題である。そのため、いきいきプラザの協力を得て、「健康フェスティバル」(測定会)を開催する。その際には、バスの送迎付きで、まずは外に出る・健康状況を知ることにより、地域の活動に参加してもらうことのきっかけとした。 ・高齢者対象のバス旅行も再開する。	・地域運営委員会・町内自治連絡協議会・青少年育成委員会・民生委員児童委員協議会との連携を強化し、連携して町づくりを行っていく。 ・地域住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」を、再開させていく。
	2 誰もが暮らしやすい環境づくり			・サロン・見守り活動・支え合い活動等、地域活動従事者と参加者・依頼者とが、顔見知りとなり気軽に声をかけ合う関係性ができている。 ・「あんしんカード」の活用・普及により、誰もが安心して暮らせる環境が整ってきている。	○	・サロン・見守り活動・支え合い活動等、地域活動従事者と参加者・依頼者とが、顔見知りとなり気軽に声をかけ合う関係性をさらに深め、コロナ禍で参加に慎重になっている高齢者にも参加を促し、見守りの環境をつくる。 ・「あんしんカード」の活用・普及により、誰もが安心して暮らせる環境づくりをさらに充実させていきたい。	・「あんしんカード」の普及とカードの内容更新について、進めていきたい。
	3 福祉を支える人づくり			・青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画している。これらにより、多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを行っている。	○	・引き続き、青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画していきたい。さらに、ポッチャの普及にも力を入れ、さらに多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを進めていきたい。	・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、イベント(地域行事)の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。
幸町2丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,548人 6,027世帯(新港を除く) 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 33.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウィルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウイズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・「ふれあい いきいきサロン」等、地域住民による交流の場・集いの場が一部において再開された。 ・地区部会が実施している「幸町2丁目地区 支え合いの会」は、幸町2丁目地区部会・UR幸町団地生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町・602地区民児協・28地区連協が、連携・協働しながらコロナ禍においても継続的に実施されてきた。	○	・「ふれあい いきいきサロン」等については、コロナ禍前の状態に戻せるよう徐々に再開させていきたい。 ・「幸町2丁目地区 支え合いの会」について、需要(ニーズ)が増えていく一方、活動者(協力員・サポーター)が不足していることから、活動を地区内の自治会単位での支え合い活動や有志の人たちの活動に引き継ぎ移行させ、今後も、出来る範囲のなかで需要(ニーズ)に応えていきたい。	・「ふれあい いきいきサロン」等については、コロナ禍前の状態に戻せるよう、徐々に再開させていきたい。
	2 誰もが暮らしやすい環境づくり			・地域支え合い活動「幸町2丁目地区 支え合いの会」と「あんしんカード」の併用により、誰もが安心して暮らせる環境が整ってきている。 ・「幸町2丁目連携会議」を実施。地域関係者が集まり、情報共有と地域課題への対応のための連携強化に努めた。	○	・地区内の自治会において、文化行事を再開させ、地域住民の交流の場の機会を設けることにより、見守り・安否確認へつなげていきたい。 ・地区部会や自治会が主体となって、健康体操を実施していきたい。	・「あんしんカード」の新規普及は、コロナ感染状況が落ち着いてきたことにより、民生委員等による訪問が再開され活用されてきている。見守り・安否確認を希望する利用対象者の増加により、今後、利用対象者の整理(制限)も考えていく必要がある。 ・「幸町2丁目連携会議」を有効に活用させ、引き続き情報の共有と連携強化に努めていきたい。
	3 福祉を支える人づくり			・次の地域活動の担い手となるべく人材の発掘・養成を行う機会として、「ポッチャ体験教室」をボランティア講座として開催した。	○	・地区部会活動の再開をきっかけに活動の実施のなかで、担い手を発掘・探していきたい。	・地域活動の担い手発掘のため、他の地区の情報を収集したり、幅広い世代に対して地域行事の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。 ・次世代の担い手の発掘の仕方(アプローチ)について改めて検討する(考え直す)必要がある。 ・高齢化が進む幸町2丁目地区の中で探していくことは難しい、限界にきている。国・社会の意識を変えて、例えば若い世代が地域活動(福祉活動・貢献活動・ボランティア活動)等をすると所属会社から評価されるような仕組みにしていかなければならないのではないか。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】
 ◎:年度目標以上のものが達成できた場合
 ○:年度目標が概ね達成できた場合
 △:年度目標の一部が達成できた場合
 ×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
 ー:評価が困難である場合

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針		
幸町一丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 7,140人 3,426世帯(新港を除く) 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 30.8% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニなどが集積する。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 幸町一丁目地区部会では、コロナ感染対策を取りながら「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい子育てサロン」を順次再開し、「ふれあい食事サービス」もテイクアウト方式で再開した。また、バス旅行も3年ぶりに実施した。 行政が行う「緊急通報システム(ALSOK)」の普及に努めた。 地区部会広報紙「小窓」を全戸配布で発行し、地区内の福祉的な情報を発信し、見守り的な効果も得られた。 あんしんケアセンター幸町との、顔の見える関係の構築に努めてきた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 健康スポーツの推進 ①男性を「交流の場(ふれあいいきいきサロン)」等に連れ出すため、パラスポーツの「ポッチャ」をサロンメニューとして取り込んで実施していく。 ②「健康体操」をサロン等に盛り込み、地元出身の理学療法士を講師に招いて、年4回程度実施していく。 子どもたち対策 ①子供たちの居場所づくりとして、学習支援と食事をセットで組み合わせたCOCO塾を立ち上げて、8月から実施していく。 ②「祭り・盆おどり」を子どもから大人・高齢者まで多世代の地域交流の場となるよう、実施していきたい。 ③既存の活動 ①既存の活動(「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい子育てサロン」「ふれあい食事サービス」)を徐々にコロナ禍前の状態に戻していきたい。 再開後に、サロン等に来られなくなった人を、どう来られるようにするか。また、ふれ食の宅配(訪問)により安否確認の機会としているが届ける人をどう確保していくか。解決に向けて取り組んでいきたい。 10月頃にはふれ食を会食形式で実施させたい。 ②昨年度再開させた「バス旅行」を今年度も実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康スポーツの一環として、パラスポーツの「ポッチャ」を広めていくことにより、「ポッチャ」というツールで高齢者を引っ張り出して、閉じこもり防止に努めていきたい。 「祭り・盆おどり」等の企画・開催をすることにより、子どもを引っ張り出すことでそこに大人(保護者等、親・祖父母＝高齢者)もついて来ることから、多世代の世代間交流や、閉じこもり・孤立の防止にも繋がらせていきたい。 そのためにも、小学校との連携を重視して、学校に負担をかけないような形で小学生(子どもたち)との地域の連携を図っていきたい。 見守り活動の効果的な方策の検討を行い、緊急事態発生時の対応方法や鍵(玄関キー)の管理の仕方(相互に鍵を持つ)等について、見直しを行う必要がある。 コロナ禍の状況は感染拡大を危惧する高齢の住民も多く、まだ不安感を持っている高齢者も少なくない。地域活動の実施にあたっては、コロナの感染状況の推移とコロナの感染対策を充分に取って進めていくことが重要である。 イベント等の開催時には参加者・利用者等からアンケート調査を行うようにし、その結果を次の活動へと反映・活かすようにしている。人(相手)に感謝されることが、活動者に生きがいを感じ、今後の活動のモチベーションにつながり、活動の継続にもつながっていくと考えている。 		
				2 誰もが暮らしやすい環境づくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	◎
				3 福祉を支える人づくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	◎
高洲高浜地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 38,319人 19,684世帯 【町内自治会数】 25町内自治会 【高齢化率】 32.1% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても、サロンの内容(メニュー)をコロナ感染対策に対応したものに工夫して、「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい散歩クラブ」をコロナ感染対策を取りながら開催し、高齢者の居場所づくり(集いの場)の提供を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」を調理・会食の形式で再開できるよう、検討・準備を行い、11月頃を目標に再開させたい。 広報紙による広報・周知活動をきっかけに高洲高浜地区部会と美浜いきいきプラザが今後も一緒に活動できるように双方の交流を図っていきたい。 コロナの影響により閉じこもりにならないよう、住民を引っ張り出せるようなイベントを企画・実施していきたい。パラスポーツの「ポッチャ」を始めてみたい。 規模を縮小・短縮して4年ぶりの夏祭りを開催し、今後、本格的再開に向けた来年以降の第一段階としてコロナ後の新たな形として実施していきたい。 敬老会についても、コロナ後に対応した形式で工夫しながら再開させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」について、調理や会食のあり方・形式等について今後、検討していく必要がある。 独居高齢者・高齢者夫婦世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。 介護相談室併設型のコンビニ(ケアローソン)を活用したイベントを企画・実施していきたい。 		
				2 誰もが暮らしやすい環境づくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	◎
				3 福祉を支える人づくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	◎

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】
 ◎:年度目標以上のものが達成できた場合
 ○:年度目標が概ね達成できた場合
 △:年度目標の一部が達成できた場合
 ×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
 ー:評価が困難である場合

資料 2-3

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
真砂地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 25,342人 12,625世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 32.0% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホール複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西果税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・真砂地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい 食事サービス」等、地域住民による交流の場・集いの場・見守りの場が順次再開されてきた。	○	・地域住民の交流の場である「ふれあい事業」をコロナ禍前のようにまで戻していきたい。 ・サロンメニューに健康体操やリハビリメニューを取り入れ、健康意識を高めてフレイル予防につなげていきたい。	・高齢者の交流の場となる「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 食事サービス」等を充実・活発にし、単身の(寂しい)高齢者が孤独感・疎外感を感じることをないようにしていきたい。
2 誰もが暮らしやすい環境づくり	・地域運営委員会が真砂地区の地域情報を一括してホームページで公開(提供)している。 ・真砂地区部会が発行している広報紙「真砂 ふれあいだより」により、身近で必要とされる地域情報を提供・発信している。 ・真砂地区部会が実施している「ささえあい まさご」は、コロナ禍においてもニーズに応え、継続的に実施してきた。 ・千葉西警察署と協働して、詐欺被害防止等の啓発活動を行ってきた。			○	・詐欺被害を防げるような、新しい知識・情報を提供できる勉強会を実施したい。	・地域住民の福祉の意識(支える・支えられる)を高め、街の価値を高めていきたい。 ・地域支え合い活動「ささえあい まさご」へ新規依頼者も増えてきていることから、様々なニーズに対応できるよう、新たな活動者(協力員・サポーター等担い手)の発掘や、すでに活動している方たちへの再研修等を行い、活動を継続させていきたい。 ・真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策が必要である。	
3 福祉を支える人づくり	・地区部会活動のPRや、次の地域活動の担い手となるべく人材発掘の機会として、美浜文化ホールで音楽と芸能のイベントを開催し、社協・地区部会・地域活動等についてPR活動を行った。			◎	・他団体との交流を行うことにより、地域福祉に関する知識・視野を広げていきたい。	・地区部会活動のPRを、イベント的な催物の開催により行うことで、多くの人たち・地域住民に活動の周知ができることから、今年度も音楽・芸能・警察との共催による開催で検討・企画・実施し、社協会員会費の増加にもつなげていきたい。 ・地域活動従事者(ボランティア・協力者)が、活動にあたり達成感を感じられ、活動の士気・意欲が上がるようにすることで、新たな活動者の発掘をしていきたい。 ・特定の活動従事者に負担のかからないような仕組みを作り、活動の継続を図っていきたい。	
磯辺地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 18,994人 8,302世帯 【町内自治会数】 28町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前までで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並び、海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながらも、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・見守り活動は、5自治会で実施。地区部会から5千円の支援を行っている。 ・磯辺地区部会が主催する「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい 食事サービス」事業については、コロナの感染拡大状況に配慮し、開催は見合わせ、再開に向けた検討・準備行ってきた。 ・スポーツ振興会による、ソフトボール大会やバドミントン大会を開催した。 ・コミュニティづくり懇談会による、遺言と相続に関する講演会を地域住民である司法書士を講師に招いて開催した。	○	・見守り活動は、4自治会で実施予定。 ・「ふれあい事業」を中心とした地区部会活動を徐々に再開(リ・スタート)させていきたい。 ・地区内の地域ルームを活用して、フリーな交流・集いの場として「サロン」を開設させ、出入り自由なお茶飲み場・おしゃべりの場を開設・提供していくと同時に、見守りとしての機能も果たしていきたい。	・磯辺地区(33地区連協)で自治会単位で実施されている「見守り活動」について、実施を検討している未実施の自治会に対して、実施に向けた啓発・説明を行ってほしい。 ・各自治会の自治会館を活用して、フリーな交流・集いの場として「ミニサロン」を開設させ、気軽に出入りできるお茶飲み場・おしゃべりの場を開設・提供していくと同時に、見守りとしての機能も果たしていきたい。
2 誰もが暮らしやすい環境づくり	・磯辺地区(33地区連協)では、地域支え合い活動を28自治会中10自治会が自治会単位で実施。地区内の高齢化が進みつつある中、コロナ禍においても感染対策に留意しながらゴミ出し等地域住民の福祉的ニーズに応じて実施してきた。 ・月に一回の定例の自治会長会議で、伝達・情報交換を行うことにより、自治会員(住民)に行政・地域の情報を浸透させていった。 ・広報紙「いそべ」を発行し、地区内の活動諸団体の情報を集約して提供している。 ・地区内の地域ルームや町内自治会集会所を拠点としてコロナ感染対策を取りながら百歳体操等の健康体操を実施している。			○	・地域の拠点となっている地域ルームの備品・設備等を充実させ清掃を行うことにより、地域住民の方たちが気持ちよく利用できるようにすることで、社協会員会費に協力いただいた方たちに地区部会活動がコロナ禍により停滞していた分を還元できるようにしていきたい。 ・磯辺地区の「地域支え合い活動」における、支え合いコーディネーター会議を再開させたい。 ・地区内の町内自治会を中心とした様々な「祭り」を再開させ、異年齢・多世代・世代間交流を活発化させていきたい。	・磯辺地区(33地区連協)で自治会単位で実施されている「地域支え合い活動」について、民生委員が現状ゴミ出しを行っている自治会や実施を検討している未実施の自治会に対して、実施に向けた啓発・説明を行ってほしい。 ・また、自治会内で「支え合い活動」が実施される場合、自治会組織内での位置づけを部門・下部組織等明確にし、活動を継続化できるようにしていきたい。	
3 福祉を支える人づくり	・次の地域活動の担い手となるべく人材の発掘・養成を行うことは、コロナの影響もあり、ボランティア講座等の開催・声かけ等が思うようできなかった。			△	・磯辺地区部会が主催する地区部会活動の担い手人材の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を開催したい。 ・また、声かけ・ロコミ等による開拓もしてみたい。	・磯辺地区部会と33地区連協の共催で、地域支え合い活動の実践者による話を未実施地区の自治会の方を対象に講演会を開催したい。 ・様々な地域団体が地域活動をしているところから、活動の担い手を発掘・引き込んでいきたい。 ・社協 地区部会の活動者(担い手)を確保できるような、企画・方法を模索していかなくてはならない。 ・時間と体力・活動力のある60歳代にターゲットを絞って、地区部会活動に引き込んでいきたい。	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(令和4年度)個票

【達成状況の目安】
 ◎:年度目標以上のものが達成できた場合
 ○:年度目標が概ね達成できた場合
 △:年度目標の一部が達成できた場合
 ×:年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
 ー:評価が困難である場合

資料 2-4

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和4年度の目標又は予定	令和4年度の実績	達成状況	令和5年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幕張西地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 11,896人 4,855世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 20.7% 【地域の特徴】 区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながら、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・幕張西地区部会エリア(30地区連協)内15自治会の内、13自治会が、見守り活動を実施した。 毎年、年1回の見守りコーディネーター定例会を開催し、各町内自治会との情報共有を図っている。 見守り活動から発展して地域支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきている。 ・「ふれあい いきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」については、コロナの感染拡大状況を見ながらも再開させた。	◎	・研修バス旅行を再開させたい。 ・「ふれあい食事サービス」を再開させたい。 ・育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行っていききたい。	・幕張西地区部会エリア(30地区連協)内15自治会の内、見守り活動が立ち上げられていない2自治会に対して、引き続き見守り活動の実施について働きかけていきたい。 ・「ふれあい食事サービス」の調理ボランティアが、高齢化等によりほほいなくなってしまうため、再開させるには調理ボランティアの発掘から始めていく必要がある。
	2 誰もが暮らしやすい環境づくり			・30地区連協が主催する「夏祭り」を3年ぶりに開催した。 ・幕張西地区に一昨年開業したイオンタウン内のウエルシア薬局のカフェスペースに幕張西地区部会が主催する2つ目のふれあいいきいきサロン「いきいきマルシェ」が本格的に開催し、買い物ついで等で気軽に立ち寄れるようなサロンができ、サロンメニューを検討しながら開催している。 ・地区の拠点となっている幕張西公民館と共催で、三味線演奏の発表会を開催した。	◎	・幕張西地区部会が主催するふれあいいきいきサロン「いきいきマルシェ」のサロンメニューの検討を行い、サロンを活性化させていきたい。 ・幕張西地区部会が発行する広報紙「YOU&I(ゆーあい)」の紙面をさらに充実させて地域情報の発信を図っていききたい。	・昨年3年ぶりに再開させた30地区連協が主催する「夏祭り」を今年度も開催させ、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場となるようにしていきたい。
	3 福祉を支える人づくり			・地区部会主催でボランティア講座を開催し、地区部会活動や地域のボランティア活動についての理解を深めた。	◎	・行事(公演会)の開催、声かけ(ロコミ)や広報紙を通じて地域活動の担い手を発掘していききたい。	・地域活動の担い手不足は現実的な問題となっており、活動継続のためにも新たな人材を発掘していききたい。
打瀬地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 24,936人 9,220世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 10.8% 【地域の特徴】 東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。中心部には図書館と公民館の複合施設である「ペイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやパレンティン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ペイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	1 住民主体による協働のまちづくり	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながら、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」を見据えて、ガイドラインによる感染対策を遵守しながら地域活動再開の検討・準備・試行・実施を行う。	・打瀬地区部会が主催する「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい 子育てサロン」「ふれあい 散歩クラブ」等の事業は、コロナ感染状況を注視し、感染対策を取りながら活動を行った。 ・打瀬地区部会では、コロナ禍により約2年間様々な活動を自粛せざるを得ない状況であったが、コロナの感染拡大が落ち着きを見せてきた頃から、コロナ後(アフターコロナ)の活動のあり方や再開にあたっての工夫等について検討を行ったうえで、認知症カフェ「そよかぜの会」の再開、認知症に関する理解を深めるためのバーチャルリアリティによる「VR認知症体験」を打瀬公民館と共催で第2回目を実施した。 ・育成委員会による、夜間パトロールを実施。 ・ペイタウン内の空き店舗を活用して、「コミュニティスペース 絆」が認知症の不安を抱える家族に対しての相談の場を設け、支援を行っている。	○	・打瀬地区部会では、コロナ禍により活動自粛(中断)せざるを得なかった「ふれ食・バス旅行・おやこカフェ」等の事業を、より魅力的な企画・工夫をしてコロナ後(アフターコロナ)に見合った活動としてなるべく早期に再開(リスタート)させたい。 ・5月に「ペイタウンまつり」を開催。家族の輪・地域住民の輪づくりやフレイル予防等、子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として4年ぶりに実施。延べ2万人位の人が集まった。今後も、商店会や育成委員会と協働して夏祭り・盆踊り・ハロウィンイベント等を実施していききたい。	・各種団体・組織による事業において、地域のニーズ(要望)に応じながら各事業を継続させていき、根付かせ、一定期間(3年程度)を過ぎたところで振り返り、評価していくというルーティン(流れ・仕組み)が必要である。
	2 誰もが暮らしやすい環境づくり			・打瀬地区部会では、バーチャルリアリティによる「VR発達障害体験会」を打瀬公民館と共催で実施。新たな視点として「発達障害」に焦点を当てて発達障害者特有の感覚を疑似体験することで障害を理解しより良い支援へとつなげていく足掛かりとなった。 ・地域住民の移動支援の取組みとして、「グリーンスローモビリティ」の実証実験が行われ、街のにぎわいが高まるよう地域全体で支援し、運用実現に期待を寄せている。 ・学校(児童・教職員)と自治会(保護者)が中心となって「子ども円卓会議」を実施。5・6年生児童が「あいさつ運動」を実施した。 ・民生委員による高齢者実態調査が実施され「安心カード」の利用が増えてきている。 ・住民の交流の場として、「朝市」を2ヶ月に1度開催している。	◎	・打瀬地区部会が実施する「VR発達障害体験会」や認知症に関する映画の上映会を、引き続き実施していくことにより障害に対する理解をさらに深め、障害者やその家族に対する支援へと発展させていけるようにしていきたい。 ・「グリーンスローモビリティ」の実用化に向けた勉強会を実施し、街のにぎわいや街全体の認知度が高まるよう検討していききたい。 ・「子ども円卓会議」で実施している「あいさつ運動」を今後、校内から街なかでの実施にまで広げていきたい。 ・ペイタウン内を子どもたちが街歩きながらゴミを拾い集める「ペイタウン クリーン作戦」を実施し、今後、子どもだけでなく大人(保護者・地域住民)にも参加してもらえるようにしていきたい。	・子ども・親(大人)-高齢者を交流(連携)させた活動を展開させていくことで世代間交流を図っていききたい。(将棋サロンの拡充・俳句(川柳)を介した交流等) ・淑徳大学・東都大学等大学との連携を企画し、若者(学生)と高齢者との双方向の交流を進めていきたい。 ・ラジオ体操をさらに浸透・広めさせ、子どもから高齢者までが同じ場に集うことで、交流が図れるようにしていきたい。 ・街区(自治会)や民生委員の協力・連携により、見守り活動の実施や、「安心カード」の普及に努めていきたい。
	3 福祉を支える人づくり			・打瀬地区部会と打瀬公民館と主催で、打瀬地区の近隣にある東都大学の協力を得て、「ボランティア講座」、美浜いきいきプラザの協力による「第2回 健康フェスティバル」を開催し、健康に関する講話・健康測定を補助を行っていただき、地域での協働の連携を強化し、活動の輪を広げることができた。 ・地域運営委員会が企画・調整を行い、地区内の打瀬中学校において1年生を対象にエキサイティング(EX)講座を開催。打瀬地区部会協力による高齢者疑似体験や警察・弁護士による講演会を行った。	○	・打瀬地区部会では、今年度も引き続き地域活動担い手の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を実施。地域住民の興味が湧くようなニーズに応えた講座を開催していききたい。	・地域住民が興味を持ってもらえるような企画のイベントを地区内各種団体・組織と連携して実施したい。実施により参加した住民が主催者側に関心を持ってもらうことにより「人づくり・担い手の発掘」につなげていきたい。また、地域づくり・地域福祉に関心を持ってもらい、世代を超えてお互いが気軽に声を掛けあえる・手を差し伸べられるような環境を作っていききたい。